

内外教育

2022年(令和4年)1月25日(火) 第6970号
購読料金 月額4,400円(税抜4,000円)

●昭和21年12月12日 第3種郵便物認可 ●毎週2回火・金曜日発行
(但し祝日等を除く) ●発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座
5丁目15番8号 時事通信社 ©時事通信社2022
誌面内容に関するお問い合わせ(編集部) educate@grp.jiji.co.jp
ご購読に関するお問い合わせ(業務管理部) dokusya@jiji.co.jp

時事通信社

目次

〈教育長はこう考える〉
羽鳥文雄茨城県小美玉市教育長に聞く
小中連携で一貫した学びを……………2~3

〈子供のための授業づくり〉
第10回 すべてを子供に返す学びの時間
奈須正裕・上智大学総合人間科学部教育学科
教授……………4~5

〈2022年度文部科学省予算案〉
ICT端末導入後の運用を支援
一②初等中等教育関係……………6~7

〈調査1〉コロナ影響で運動減、体力低下進む
21年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」
—スポーツ庁……………8~9

〈調査2〉8割が損害保険の教育「必要」
日本損害保険協会が公民・家庭教員に調査
……………10~11

〈特集〉3年目は1.3%減の6615万冊
22年度小学校教科書需要数—文科省まとめ
……………12~14

〈アンテナ・スポット〉▷生理用品、県立校で非
対面配布▷小中学生タブレットに悩み相談サイト
▷放課後学級にも無線回線▷県立高入試に特色選
抜導入へ▷高専学生がプログラミング教育▷規制
緩和で部活動や全校集会など再開▷「共通テスト
なし」は診断書必須▷わいせつ教員DB、23年度
から▷金融教育で連携、ほか……………15~18

〈ラウンジ〉
子供の学びの包括ケアシステムを……………19

本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。

ウィズコロナ時代の教育

敬愛大学客員教授 ● 武内 清



教育再生実行会議の第十二次提言(2021年6月)には、「ニューノーマルにおける新たな学び」「遠隔・オンライン教育の推進」というキーワードが掲げられている。新型コロナウイルスの終息が見えない中で、デジタルを利用して新しい学びの形態が模索されている。

一斉教育、チョークと黒板、紙の教科書、学校行事、部活動が当たり前の学校教育から、デジタル教科書、遠隔教育、個別最適化などを取り入れた教育方法への転換が試行されている。

しかし、児童生徒1人1台の情報端末を配布すれば、デジタル教育が進むわけではない。それに

は、学校のデジタル環境の整備、教員の研修と意識の変革、家庭のデジタル格差の是正、教育の実践の積み重ねとデータでの検証が必須である。

学校の当たり前の見直しも必要である。学校に通うことは、すべての子供に必要なことなのか。遠隔でできることはないか、無駄な学校行事はないのか、部活動を外部化できないかなど、この機に学校生活の当たり前を見直し、過密を避け、多忙化している教員の負担も減らしたい。

将来の社会生活を考えると、小中学生にはリアルな対面指導や学校生活の重要性はなくならない。高校生や大学生になると社会性も育っている

デジタルを利用した遠隔教育も有効である。

遠隔教育を経験した大学生の声を幾つか紹介する。「(対面教育)ならではの緊張感、表情が見える教育、人に会う苦痛やストレスの耐性を付ける。(遠隔教育で)通学時間が省ける、人に会うという苦痛から解放される、自分のペースで学習できる、私語やスマホに気を取られず、集中して学べる、自分の意見を主張しやすい。対面と遠隔の両方を組み込むのが最適」(敬愛大学生)など。

人には、環境の変化に対して動的にに応じていくレジリエンス(適応能力)がある。それは、環境の変化に対して自らを変化させる柔軟性である。これを駆使して、難局を乗り越えたい。

